

子育てしやすい住環境の充実を図る「こどもつながるUR」を展開

～10年間で100団地10万戸の形成を目指します～

独立行政法人都市再生機構（以下「UR都市機構」）は、平成26年度以降、“多様な世代が生き生きと暮らし続けられる住まい・まち”《ミクストコミュニティ》の実現を目指し、地方公共団体・地域包括支援センター・自治会など地域関係者と連携しながら、団地の地域医療福祉拠点化を推進してまいりました。

昨年7月には、事業メッセージ「ゆるやかに、くらしつながる。」を発表し、これからのくらしの可能性を見据えた新たな価値の提案をするため、様々な活動に取り組んでいるところです。

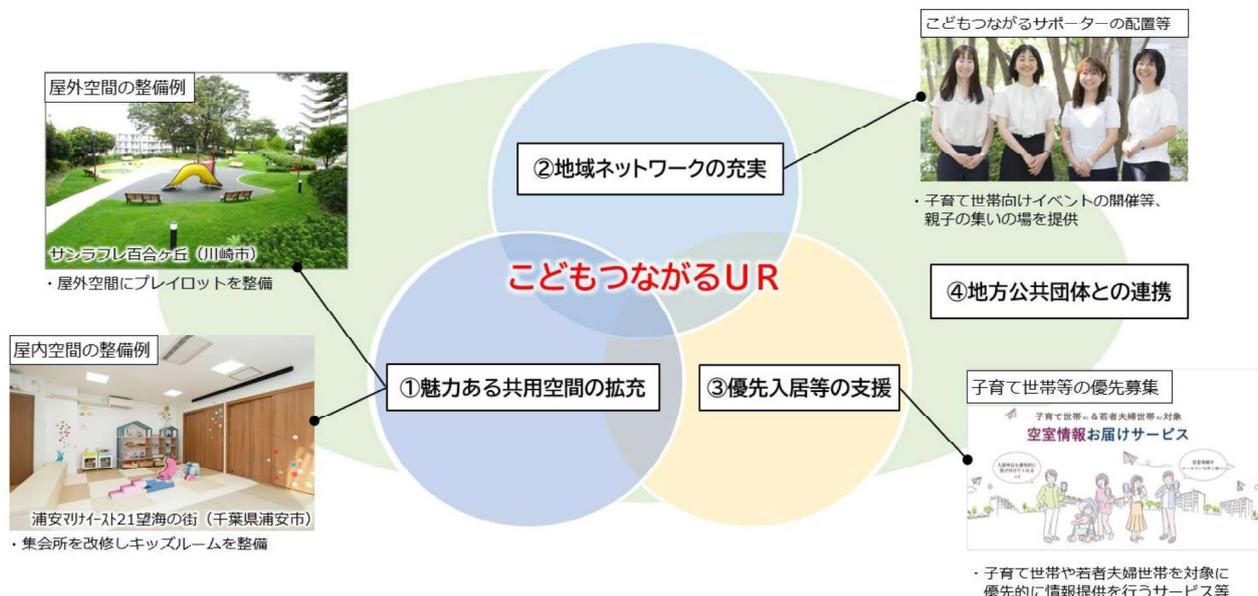
今般、新たに策定された「住生活基本計画（全国計画）」（令和8年3月27日に閣議決定）では、UR賃貸住宅において、福祉と連携した居住支援体制の整備や居住者間の交流の場と機会の創出、子育て世帯が利用しやすい共用空間の整備や子育て世帯の優先入居の推進などが定められました。

これらを踏まえ、UR都市機構は、地域医療福祉拠点化に加え、若年・子育て世帯を対象とした「こどもつながるUR」を展開いたします。

UR賃貸住宅には、緑豊かな屋外環境や団地内によっては集会所や保育園なども備わっており、子育てに適した環境が整っています。「こどもつながるUR」は、さらに子育てしやすい住環境の充実を図る取り組みであり、以下の4つの施策を総合的に実施することで、魅力ある団地づくりを進めます。

【「こどもつながるUR」の具体的な施策内容】

- ① 魅力ある共用空間の拡充（子どもが安心して遊べる屋外空間及び屋内空間の整備）
- ② 地域ネットワークの充実（親子の集いの場の提供や子どもの居場所づくり等）
- ③ 子育て世帯等の優先入居等の支援
- ④ 地方公共団体との連携



上記4つの施策をすべて満たした団地を「こどもつながるUR」と称し、今後10年間で100団地10万戸の形成を目指してまいります。

UR都市機構は、地域医療福祉拠点化を中心とした高齢者施策に加え、「こどもつながるUR」を展開することにより、引き続き《ミクストコミュニティ》の実現を目指してまいります。

この取り組みの一環として、コミュニティ形成支援活動の統一ロゴ「DANCHIつながる一む」を使用します。統一ロゴ「DANCHIつながる一む」を使用することは、団地らしさと地域に開かれた交流を表現し、全国のUR賃貸住宅で展開する多様なコミュニティ形成支援活動を一貫して示すことを目指しています。令和8年度から広報物やイベント等で順次使用し、地域とともにコミュニティ形成のさらなる推進を図ってまいります。



このロゴは、UR賃貸住宅におけるコミュニティ形成支援活動の統一ロゴマークです。事業メッセージである「ゆるやかに、くらしつなげる。」を体現し、誰もが参加しやすい開かれたコミュニティの形成を目指す取り組みを象徴的に表現しています。

今後もすべての世代のさらなるウェルビーイングの実現を目指し、団地の価値向上に取り組んでまいります。

春休みにも様々な団地でコミュニティ形成活動を展開しております。是非UR賃貸住宅に足をお運びください。

■くらしつなげるURサイト

https://www.ur-net.go.jp/chintai_portal/welfare/index.html

■春休みはURのイベントに参加しませんか？

<https://note.ur-net.go.jp/n/n513283248780?gs=dc9e9a3b887b>

【本件に関するお問い合わせ先】

UR都市機構 本社

ウェルフェア推進部 企画課 (電話) 045-650-0182

住宅経営部 企画課 (電話) 045-650-0562

広報室広報課 (電話) 045-650-0887

UR都市機構の歩みは戦後の住宅不足解消に端を発しています。1955年から様々なステークホルダーとともに、時代時代の多様性に即し、安全・安心・快適なまちづくり・くらしづくりを通して、「人が輝く“まち”」の実現に貢献してまいりました。そしてこれからも、変化する社会課題に挑戦し続けることで皆さまにお応えし、「人が輝く“まち”」づくりに不可欠な存在でありたいと考えております。これまで培ってきた持続可能なまちづくりのノウハウをいかし、都市再生事業・賃貸住宅事業・災害対応支援・海外展開支援に全力で取り組んでまいります。

<https://www.ur-net.go.jp/>



UR都市機構は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。